

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2774800581		
法人名	社会医療法人 垣谷会		
事業所名	グループホーム田井城の里(2階)		
所在地	大阪府松原市田井城6丁目282番地2		
自己評価作成日	平成 30年 8月 31日	評価結果市町村受理日	平成 30年 10月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JirgvsyoCd=2774800581-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 9月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の状態であっても、家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して個々の意思、ライフスタイルを尊重しながら、自立に向けた支援ができるよう、認知症の介護における有資格者が一人一人に適したケアを心がけています。
年間行事などでは担当者は自分の持ち味を最大限に活かしながら飽きないように工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざし貢献する社会医療法人が運営するグループホームで、通所介護サービスを併設しており、近隣には同法人の病院があります。開設後15年余りの事業所で、広く明るくゆったりとしたリビング兼食堂からは、周辺の田園風景や山並みが見渡せ、やすらぎを感じることができます。ベランダには季節の花や野菜が植えられベンチもあり、外気浴をしたり、有名な夏の花火も楽しむことができます。有資格者、また経験豊かなベテラン職員が多く、退職も少ない状況です。職員間の意思疎通やチームワーク、信頼感は抜群で、利用者の意思を尊重しながら優しく接し、家族とも協力して利用者に対応していることに、家族は高い評価を与えています。利用者は優しい職員に囲まれ、美味しい食事を楽しみ、医療的な心配もなく、落ち着いた雰囲気の中でゆったりとした表情で過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える場所に掲示しており、会議、カンファレンスの場で理念に沿った考え方を伝えている。	「地域や自然に触れ合いながら、ご本人の意思を尊重し、穏やかな共同生活を送れることを目指します」をホームの理念とし、明示しています。定例会議や常勤会議、毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎週1回、近くのコンビニに買い物に行き、顔見知りになり、常連向けの挨拶をして下さっている。 近隣の小学校より運動会見学の招待状が届き応援に行くなど、地域との交流を持っていただいている。	地域の行事の地蔵盆、小学校の運動会へ出かけています。老人会会長の紹介で、毎年3月には地域に設けられる大相撲春場所に向けて相撲部屋の朝稽古にも行っています。また母体法人の病院が行う秋の健康展には多くの地域住民が訪れるなど、ホームと地域双方向での交流が行われています。毎日ホーム周辺へ散歩に出かけ、近隣のカラオケ喫茶やコンビニの従業員とはすっかり顔なじみになり、気軽に声を掛け合う関係ができています。ホームは市の要請により「家族介護教室」を開催するなど、地域へ向けての活動を積極的に行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>松原市より家族介護教室開催の委託をがあり、施設内での認知症研修などを開き、地域の方にも参加していただき知識を深めていただくことに貢献している。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には町会の方や民生委員、利用者ご家族に参加していただき、事業計画や近況報告、施設での取り組みなどを報告し意見を頂戴し、施設運営やケアに活かしている。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回定期的に開催しています。会議には老人会会長、民生委員、市職員、家族が参加し、ホームの運営状況や地域の情報などの報告と活発な意見交換が行われています。議事録は毎回すべての家族に送付して、会議の報告と共に会議への参加を呼び掛けています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターのケア会議や松原市グループホーム連絡会に参加して情報交換を密に行っている。市主催の研修等にも出席し、運営推進会議には市の職員が出席されている。</p>	<p>管理者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また、管理者は地域のグループホーム連絡会やケア会議に参加し情報交換しています。市に協力し、家族介護教室や認知症サポーター養成講座の運営に参加しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>年間研修計画にそって「身体拘束廃止」研修を行っており、基本的な事から事例を通してのグループワーク等、身体拘束に関する理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。</p>	<p>職員は年間計画に基づき、身体拘束廃止や虐待防止について学び、意識を高めて、身体拘束のない介護を目指しています。エレベーターは施錠されていませんが、1階事務所受付前の出入口扉は施錠されています。ただ、押しボタン操作で解錠できるようになっています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修のテーマに挙げて取り組んでいる。職員間のコミュニケーションを多くとり、1人で抱え込まない環境づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度に関しては、職員が活用できる理解が浅く、学べる場を設ける必要があると感じている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設長が窓口となり、締結・解約を行っている。入居時はご本人・ご家族の希望や不安な点をお聞きし、情報を職員にも開示した上でどうお迎えする科カンファレンスを行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書には外部への相談窓口を記載している。 面会時、催し事の際にはご家族とのコミュニケーションをとるようにしてご意見を伺い、ケアや運営に反映するよう努めている。</p>	<p>家族の面会時には積極的に声をかけ利用者の様子を伝えたり、家族からの要望を聞き取るようにしています。家族とコミュニケーションをより図るために利用者一人ひとりのお便りノートを作成し、居室担当者が利用者の暮らしの様子を記入し、面会時に家族が読んで意見や要望を記入することもあります。春の花見、夏の流しソーメン行事、秋の遠足などの時は家族に案内を出して参加を呼びかけて、行事終了後に家族からの意見を聞く取り組みを行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会議や日々の申し送りにて意見を出し合い、業務に反映している。</p>	<p>職員は、定例会議や常勤会議、日常の業務の中で業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。有資格者、また経験豊かなベテラン職員が多く、利用者の意思を尊重しながら優しく接し家族とも協力して利用者に対応していることに、家族は高い評価を与えています。管理者は職員の働く環境や勤務時間などに留意し改善の努力をしています。また、資格取得を目指す職員の勤務時間などにも配慮しています。職員と定期的な面談を行っています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>定期的に職員と面談の場を設け、職場環境の整備に反映させている。 また、内部研修会や行事を主催してもらうなど、主体性や向上心が持てるように配慮している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修も必要であれば法人負担で研修に参加できたり、OJTとして先輩職員が直接指導を行い、なるべく個々の能力や希望に沿うように機会を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に出席し、情報交換や事例検討会など、お互いのサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安があると思われるため、受け入れられていると感じていただけよう初期においては特に気を配り行動を共にしつつ、よく傾聴して信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階でご家族から要望や不安なことなどを聞き、問題解決に努めている。逐一利用者の状態を報告することで信頼関係を作れるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族に要望書の記載をお願いし、必要なサービスについて対応可能かどうかの話もさせていただき、場合によっては十分な説明とともに他のサービスの紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ごとにできることを見つけ、料理の盛り付け、洗濯物たたみなどを一緒に行うように心がけ、役割を持っていただきながら生活を共に送っていただく関係づくりへの配慮をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族会への呼びかけを行い、参加を促している。毎月発行している広報などでも施設内の様子など情報をお伝えしている。また本人の生活歴や背景など家族から情報提供をいただき、本人のケアに役立てている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の面会も施設として歓迎し、次回の面会につながるようにしている。なじみの美容院などご家族の同伴をお願いしたり、地域の歌の会などに参加したりしている。	職員は、利用者の知人がホームを訪ねる時に支援しています。利用者が行きつけの美容院や喫茶店、コンビニ、また海釣りなどに行きたい時にはケアプランにも反映させて支援し、利用者の思いを叶えるなど、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲み会話を楽しんでいたり、合同レクに参加していただいている。外気浴や散歩、外食会などと一緒にいくことで仲間意識、なじみの顔ぶれ感が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば退居者やその家族からの相談にも応じている。退居後もお見舞いなどに出向いたり、築いた関係性を大切にしている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話やご家族の要望、生活歴などから希望や意向をくみ取り、サービス計画に反映させている。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取ったり、利用者の表情やしぐさから汲み取った希望や思いを3か月毎にアセスメントシートに反映させています。また職員間の連絡帳にも書き込んで、職員間で情報を共有する努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンド、ご家族からの情報を活かしながら、ご本人の声に耳を傾け生活支援の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化を見逃さず、日ごろから一人一人の状態を把握し、記録に残している。特変事項は確実に申し送り、チームでの情報共有努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日常の変化など職員間で申し送り、アセスメント・モニタリングを通して課題を明確にし、カンファレンスを経て次のサービス計画に反映している。</p>	<p>介護計画は3か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は毎日、個別介護計画について実施状況を記録し、居室担当職員が月毎にモニタリングをしています。計画作成担当者は3か月毎にまとめのモニタリングを実施して評価し、カンファレンス・サービス担当者会議を経て介護計画の見直しにつなげています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に支援記録に、日ごろの様子やケアの内容、状態などを記入しており、王仕送りや連絡ノートを活用して、必要に応じてカンファレンスを行い、情報の共有を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて病院受診や買い物、外食の動向などを行っている。利用者やご家族のニーズを拾い上げ、ご満足いただけるサービスを提供できるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会長や民生委員、市の職員とも連携し、市の行事に参加したり地域のボランティアの訪問を受けるなどして、心豊かな生活を送れるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族の合意の下に、協力病院と密に連携を取り対応している。入居前からのかかりつけ医療機関や訪問往診を希望される場合はそちらと連携し、適切かつ納得のいく医療サービスが受けられるように調整している。</p>	<p>家族の同意を得て、大半の利用者は、定期的に協力医療機関で受診しています。また、医療連携している協力医療機関の看護師が週1回利用者の健康管理を行っています。以前からのかかりつけ医やその他の診療科目について受診する利用者には、家族の同行が原則ですが、必要の都度職員が通院介助を行っています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>提携している明治橋病院の看護師による週一度の健康チェックを受けていただいております。気づきや特変事項の情報共有を行っている。併設のデイサービスの看護師にも必要に応じて相談を行い、助言をもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には職員が同行し、状態説明を行っている。入院中の方には逐一面会に赴き、状態の把握に努めている。退院時には同行させていただきサマリーをいただいて情報収集と共有に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人、ご家族の意向について話し合い、ご本人の負担が少なく安心していただけるよう、医療機関との連携を密にし、状態の変化に応じてその都度話し合いを重ねて、適切かつ意向に沿った方法を検討し取り組んでいる。</p>	<p>ホームでの看取り実施の方針はなく、重度化した時には、同一法人の協力医療機関で対応する体制を整えています。利用者が重度化しても可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。利用者の状況の変化に合わせてその都度、利用者や家族、医師と話し合い、対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時を想定した研修会などに参加し、他職員にも報告、伝達し、施設内研修・勉強会を開催している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災委員会を設置しており、定期的な避難訓練の実施および緊急時の応援体制の構築、マニュアルの整備などを進めている。</p>	<p>同一法人の併設施設と合同で、年2回の火災・災害避難訓練を消防署の指導・承認のもとに実施しています。ただ、併設されているデイサービスとは事業形態が異なるグループホーム独自の避難訓練は実施されていません。食料品と水の備蓄については、今後、順次計画的に増量していく予定です。</p>	<p>グループホーム独自の避難訓練を、夜間想定を含めて実施されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格や気持ちを考えて、尊敬の念をもって接している。自己選択と自己決定を尊重し、プライバシーと尊厳を重視した対応を心がけている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、プライバシーや接遇の研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でご本人の意思を確認している。また、ご本人が自分の思いを表しやすいような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気持ちの変化を見逃さないようにしながら、個々の思いを大切にして、強制しない支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用しており、日ごろから髭剃りや化粧の支援を行っている。服装もその人が自分らしさを表現できるよう気に入った衣服を清潔な状態で着ていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>事前にメニューをお伝えして楽しみにしていただけるよう配慮している。盛り付けや食器にも工夫し、一人一人の状態に合わせて配膳している。利用者様と一緒に盛り付け、食器拭きなどを行い、利用者様が主体となるよう支援している。</p>	<p>朝夕の食事は業者から届いた食材をホームで調理し、昼食は併設施設より調理されたものが届けられ、盛り付けや配膳など利用者と一緒に行っていきます。毎月1回手作り食事の日を設けて、利用者の希望する献立を中心に全員で食事作りを行っています。外食は家族の協力を得て随時実施しています。職員は、楽しく会話しながらさりげなく必要な食事介助を行っていますが、利用者と一緒に食事を摂ることができていないので、1日1食でも利用者と同じものを食べる機会を持つことを現在検討しています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ご本人の状態を把握し、食事の形態・量など食べやすく提供している。食事量・水分量を記録し、過不足のないようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアや義歯洗浄支援にて清潔保持に努めている。また、週一回の訪問歯科とも連携し、口腔内の状態を把握し、助言をいただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を元に時間を見計らって声掛けと誘導を行い、またご本人の表情や仕草を読み取りトイレでの排泄がスムーズにできるよう支援している。	排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、しぐさや表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りによりトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況のチェックを行い、運動、水分摂取や腹部マッサージにて自然排便を促している。自然排便が困難な方は主治医の指示を受け緩下剤を使用し快適な便通を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の意向を確認し、無理強いしないように入浴の声掛けをしている。季節によっては柚子湯や菖蒲湯などを利用して、入浴を楽しんでいただけるような工夫をしている。	週2回以上の入浴ですが、入浴希望のある利用者や、皮膚疾患等の特定の利用者は週3回以上入浴しています。入浴用の介護リフトが据付けられています。季節を感じてもらうため、菖蒲湯やゆず湯も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず利用者様のペースに合わせて休息、睡眠をとっていただいている。日中は身体を動かすレクリエーションや体操などを行い、夜に気持ち良く眠れるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には日時と氏名を声出し確認して誤薬防止に努めている。処方変更時には申し送りに記載し、職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割をもっていたとき、人から感謝され張り合いのある毎日をすごしていただけるよう支援している。外出や外食、買い物など希望を伺って日々の暮らしに楽しみをもって頂けるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課として近所の散歩を毎日している。ご家族と連携したりして、ご本人のニーズを把握し、ドライブを計画したり希望の場所へ外出できるよう支援している。	ホームの外に出ることを外出の基本にしています。毎日近隣への散歩に出かけています。外出する代わりに毎日玄関のポストへ新聞を取りに行く利用者もいます。1か月に1回喫茶店へ行く人、ペットプラザへペットを見に行く人、3か月に1回釣り堀へ行き、年に1回海釣りへ行く人など、利用者一人ひとりの希望に沿ってケアプランに反映させながら個別の外出支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人の希望や能力に応じて、相談しながらトラブルが起きないような対応をしている。ほとんどの方はご家族の希望により施設にて金銭管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者の希望に応じて、いつでも電話をかけたり手紙を出せる環境を整えている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベランダには花や野菜を植え、フロアには七夕やクリスマスなど季節の飾りつけを利用者と一緒に行っている。温度や光などは常に心地良いと感じていただけるように管理している。また、懐かしい音楽や好きな音楽をかけたりして楽しんでいただく工夫も行っている。</p>	<p>広く明るくゆったりとしたリビング兼食堂からは、周辺の田園風景や山並みが見渡せ、やすらぎを感じることができます。ベランダには季節の花や野菜が植えられベンチもあり、外気浴をしたり、有名な夏の花火も楽しむことができます。リビングには、七夕やクリスマスなどの季節の飾りや作品、楽しげな行事写真等を飾っています。また、複数の豪華なソファーが置かれ、テレビやカラオケを楽しめる居場所となっています。広くゆったりとした廊下の隅にもソファーと椅子、テーブルを配置するなど、心が和み居心地の良い共用空間となっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースから少し離れた窓際に小さなテーブルを設置し、一人ですごせる空間を作っている。また、テレビ前に一人用ソファを置き、気楽に鑑賞できる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使い慣れた家具や機器、洋服などを持ってきていただき、ご家族にもご協力いただきながらなじみの物や好きな物に囲まれて心地良い空間にできるよう工夫している。	広く明るい居室の入り口には、利用者の名前入り作品や暖簾が掛けられています。利用者は、ムートンの毛皮が掛けられた立派な応接セット、机、椅子、観葉植物、ぬいぐるみ、家族の写真、数十冊の猫の書籍、クラシックピアノ曲のCD、ラジカセ、冷蔵庫、手芸作品、外出着、テレビ等を持ち込むなど、個性的で居心地の良い居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前入りの暖簾をかけたり、トイレの絵や文字など分かりやすい表示を工夫するなどしている。家具などは動線を考えて安全に移動できるように配置している。		